

平成23年度事業報告

I. 研究発表会、講演会等の開催

(1) 日本心理学会第75回大会

期日：平成23年 9月15日（木）—17日（土）

会場：日本大学文理学部

主催校：日本大学（大会会長：巖島 行雄教授）

(2) 公開シンポジウム

(a) 無縁社会の心理——その問題と処方——

期日：平成23年 8月27日（土）

会場：科学技術館サイエンスホール

期日：平成23年 9月 2日（木）

会場：大阪新阪急ホテル

(b) なつかしさの心理学：思い出と感情

期日：平成23年10月22日（土）

会場：キャンパスプラザ京都

期日：平成24年 3月11日（日）

会場：名古屋大学

(c) 障害の説明と受容（仮題）

標題を“負の連鎖を断ち切ることはできるか——児童虐待からの再生——”と変更し、2012年度に開催することとした。

(3) 日本心理学会企画シンポジウム（第75回大会時）

心理学の社会への貢献とは——心理学リテラシー育成と博物館プロジェクト——

期日：平成23年 9月15日（木）（第75回大会内）

会場：日本大学

(4) 日本学術会議合同企画シンポジウム

いま、何故、心理学教育を高校に導入する必要があるのか？

期日：平成23年 8月20日（土）

会場：東京大学

(5) 機関誌等編集委員会企画講習会

英語論文投稿への道——入門編(2)——

期日：平成23年 9月16日（金）（第75回大会内）

会場：日本大学

II. 学会誌、研究報告書及びその他の資料の刊行

(1) 機関誌“心理学研究”第82巻第1号—第6号を刊行した。

(2) 機関誌“Japanese Psychological Research” Vol. 53, No. 2-No. 4 & Vol. 54, No. 1を刊行した。

(3) 会誌“心理学ワールド”第53号—第56号を刊行した。

III. 研究及び調査の実施

(1) 心理学教育についての調査・研究

市民の心理学リテラシーに関する調査を行い、調査結果を第75回大会シンポジウム“心理学の

社会への貢献とは——心理学リテラシー育成と博物館プロジェクト——”で発表した。

(2) 専門家としての力量形成についての調査・研究

平成24年度継続

IV. 国内の学術団体との学術研究協力

(1) 日本学術会議

合同企画シンポジウム“いま、何故、心理学教育を高校に導入する必要があるのか？”を開催した。

安全工学シンポジウムに共催した。

(2) 日本心理学諸学会連合

本会から3名、理事として参加している。

会費および認定心理士承認料を支払った。

(3) 日本認定心理士会

協力金を支払った。

V. 国際的な学術研究協力

(1) 国際心理科学連合

分担金を支払った。

(2) 国際テスト委員会

分担金を支払った。

(3) 韓国心理学会

交流協定に基づき、韓国心理学会大会で日韓共同シンポジウムを開催した。

また、日韓大会で両国の学会員が研究発表を行った。

(4) 中国心理学会

協力協定に基づき、連絡協力を行った。

(5) オーストラリア心理学会

第75回大会でシンポジウム“ICP2016を意義あるものにするために——ラウンドテーブルディスカッション——”を行い、話題提供者としてオーストラリア心理学会理事長を招待した。

(6) 南アフリカ・アメリカ心理学会との協力協定締結

南アフリカ心理学会との協力協定を締結した。

アメリカ心理学会とは協力協定締結中。

(7) 台湾心理学会

台湾心理学会との協力協定を締結した。

VI. 研究の奨励及び研究業績の表彰

(1) 公益社団法人日本心理学会優秀論文賞の選考・授与

平成22年度刊行の“心理学研究”および“Japanese Psychological Research”（特集号を除く）掲載の原著論文のうちから選考委員会において受賞論文を決定した。平成23年度会員集会時に授与式を行った。

<優秀論文賞>

(a) 大学生の抑うつ予防のための自己複雑性介入プログラムの効果

著者：川人 潤子・堀 匡・大塚 泰正（広島大学）

掲載：心理学研究第 81 巻第 2 号

(b) スクロール提示された文章の読み特性

著者：八木 善彦（産業技術総合研究所）・菊地 正（筑波大学）

掲載：心理学研究第 81 巻第 4 号

(c) もっともらしい理由による選択の促進

著者：山田 歩（青山学院大学）・外山 みどり（学習院大学）

掲載：心理学研究第 81 巻第 5 号

(d) Multisensory integration of vision and touch in nonspatial feature discrimination tasks

著者：和田 裕一（東北大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol. 52 No. 1

(2) 公益社団法人日本心理学会国際賞の選考・授与

国際賞選考委員会にて、国際賞受賞者を選考し、平成23年度会員集会時に授与式を行った。

<国際賞>

奨励賞

蘆田 宏（京都大学文学研究科）

佐藤 弥（京都大学霊長類研究所）

島津 明人（東京大学医学系研究科）

(3) 研究集会等への支援

31件の研究集会等助成を行った。

(4) 国際会議参加者への旅費補助

26名の国際会議参加者への旅費補助を行なった（ヨーロッパ心理学会 他）。

VII. 認定心理士の資格認定及び研修

(1) 公益社団法人日本心理学会認定心理士資格の審査と授与

平成24年3月31日現在、総件数3 593件を審査し、3 102名を合格、114名を不合格、377名を保留とした。必要な手続を経て資格を取得した者は3 138名であった。

(2) 公益社団法人日本心理学会認定心理士研修会

(a) 企業従業員のストレス対策とWell-being向上を目指して——組織の資源として健康を捉える——

期日：平成23年 6月 4日（土）

会場：秋葉原UDXギャラリー

(b) この時代を生きるということ——心理学のもたらす支え——

期日：平成23年 8月20日（土）（北海道心理学会・東北心理学会第11回合同大会内）

会場：北方圏学術情報センターPORTO

(c) 脳は鍛えることができるか？（第75回大会内）

期日：平成23年 9月17日（土）

会場：日本大学

(d) 社会的迷惑研究の展開——自らの行為が与える影響を論究する——

期日：平成23年 9月19日（月）（日本社会心理学会大会内）

会場：名古屋大学

(e) 発達心理学：文化・環境・学習の立場から

期日：平成23年11月26日（土）（沖縄心理学会大会内）

会場：琉球大学

(f) 社会に生きる行動分析学（日本行動分析学会共催）

期日：平成24年 1月22日（日）

会場：フォレスト仙台

(3) 教科書の刊行

“(認定心理士準拠)実験・実習で学ぶ心理学の基礎”（仮題）の刊行に向け，検討を行った。

VIII. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 東日本大震災復興支援特別委員会

“震災からの復興のための実践活動及び研究”を公募し，12件に助成を行った。

(2) 心理学の普及・啓発のための広報活動

日本心理学会ホームページをリニューアルし，会員・認定心理士のためのページの他，研究者，心理学に係る職業の方，心理学に興味がある一般の方向けのページを作成した。

(3) 倫理規程の継続的な検討・倫理問題の解決

倫理に関する問合せがあり，検討を行った。

(4) 選挙の実施

理事長，常務理事選挙を実施した。

(5) 第31回国際心理学会議（ICP2016）組織委員会

第31回国際心理学会議（ICP2016）組織委員会を日本心理学会の特別委員会とした。

ICP2016開催に向けて，所管事項を審議した。

以上